

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 太陽の家
所在地 (県・市町村名)	三重県鈴鹿市西條町495番地の1
記入者名 (管理者)	上垣外 隆志
記入日	平成 19 年 5 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

↑
取り組んでいきたい項目
 ↓

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="radio"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	理念の中に地域に密着した介護理念が欠けている等、その時代に相応した理念の見直しを行っていただきたい。
2	<input type="radio"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	今後も理念が浸透し続けるよう、またその時々々の社会状況等、必要に応じて理念の見直しも含めて検討していきたい。
3	<input type="radio"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	当事業所の役割が更に地域に浸透していくように啓発していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="radio"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	当事業所の立地条件として、商業区域であるため自治会などの組織がない。いわゆる一般的な地域との関わりという意味合いでは日常的にできるわけではないが、近隣の店舗に声かけをおこない協力できる体制はある。
5	<input type="radio"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地元の祭り、行事等の案内又は招待を受けその他季節感あふれる行事への参加を通じて地域住民との関わりを持つように努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に活動としては行っていない。	○	地域の社会資源をもう一度見直し、それぞれの役割について理解していけるよう努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価等で指摘を受けた事項に対して改善できるよう努力している。	○	前回の外部評価の際に指摘を受けた事項について、介護計画の家族の同意と、定期的な見直しについて、それ以降には同意署名をいただき、計画については随時見直しをおこなっている。また、苦情相談窓口の明記が重要事項説明書に記載されていない事と、事業所内への掲示がない件についても、追加記入、事業所内へ掲示し改善した。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が開催できていない。	○	運営推進会議を実施するうえで、地域住民等を委員会の構成メンバーとして参入してもらいたいが、現在人選に苦慮しており開催できていない現状がある。今後は、運営推進会議の必要性を更にアピールし、早期開催の実現に向け取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の訪問を受け入れている。	○	介護相談員の方とも、今以上にコミュニケーションをはかりサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中に、成年後見制度を利用している方が複数名おり、日常の業務の中で制度等について聞いたり関連した内容に触れる場面もあり、またグループホーム連絡協議会を通じて弁護士による制度等について学んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしてはならないという認識があるのは当然のことであるが、それを学習する機会をあえて設けているわけではない。回覧文書として職員に周知させるシステムはあり、防止できるように努めている。身体拘束委員会と同じくして虐待防止委員会を設置し、定期的な委員会活動を通じ全職員に虐待の早期発見と防止に努めている。	○	個人で学習することは当然であるが、事業所としてより深く学ぶ機会をつくり動機づけをしていきたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約時には面接を兼ねて重要事項の説明を行っている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>事業所内に意見箱を設置しいつでも投函が可能な環境にある。また事業所内に留まらず県の苦情相談機関の連絡先を施設内に掲示してある。また、契約時に重要事項説明書の中に苦情申出に関する窓口の連絡先を記載している。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>緊急時、及び必要時はその都度家族と連絡をとっている。それ以外は定期的な家族会開催時に報告している。金銭管理については、個人のお小遣いを金庫にて保管し、出金、残金を出納簿へ記載し家族会の際に報告、確認してもらっている。</p>	○	<p>職員の異動について、新入職員についてはホーム便り等でお知らせしているが、退職者については知らせていないので今後はおこなっていききたい。信頼関係の構築が重要であるため、直接介護する職員の進退は家族にとっても必要な要素であると考えます。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>13に同じ。</p>	○	<p>家族会の際に、事業所の職員は席を外し、家族だけで話しあう時間を設けていきたいと考えている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>運営やその他日常の業務、処遇について職員の意見をとり入れるよう改善提案書を配布し意見を吸収できる体制はある。また、必要時に職員会議を開催し諸問題に対する討議をおこなっている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>諸問題が発生した場合は、その都度職員会議を開催し対応策等を討議している。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>職員の個人的な離職に対して制止できない場合もあるが、極力就労しやすい環境に配慮し、離職の場合は速やかに補充できるよう努力はしている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会等の研修会に参加し、吸収した内容は日々の業務に還元できるよう努めている。また、管理者によるサービスの質の向上にむけた研修をおこなっている。	○ 施設外の研修はもちろんであるが、施設内の研修が充実できるよう取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での加盟施設間をお互いに実習しそれぞれの長所等を吸収し日々の介護に反映できるような取り組みを行っている。また、年1回の作品展を呼びかけ市内13事業所と協力しながら、市内大手ショッピングセンターで作品展を開催している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の月間における自己評価表を個別に記入、個人的には目標とその達成度等を通して職員の負担の軽減の為、アドバイスを行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	21に同じ。また、職員個々の家庭事情等を考慮し、可能な限り両立できるよう勤務状況について配慮している。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用の際は、契約を兼ねた面接を実施し、個人のADLの把握、家庭環境、家族の介護力、生活暦等を十分に聞き取り利用開始に至るまでに職員に周知徹底させている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	23に同じ。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活が可能であるか判断し、それが不可能と判断される場合はその旨説明をおこなっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約時に過去の生活歴や趣味などを聞き、施設での生活に馴染みの環境がつけられるよう配慮している。	○	利用に難色を示されるなどの利用者には、併設しているデイサービスをしばらく利用してもらい、事業所に馴染んできたら具体的な入所に際しての相談をするように配慮している。また、そうではない場合で、利用者本人が施設の見学等ができない場合は家族に事業所の概要説明、見学を受け付け、必要に応じて事業所内、外部の写真を渡している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人が得意なことを聞く、及び発掘し日常生活の中でそれが活かされるよう配慮している。	○	利用者の過去の経歴や、昔の遊び(お手玉)、や過去の職歴から得意な裁縫などを職員が教えてもらうことも多い。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中で、家族の協力が必要な場面は協力を要請するなどして対応している。	○	利用者本人の生活を支えていく上では、家族の協力なくして成立しない。今後は更に協力体制が確保できるよう家族会等を通じて信頼関係の構築に努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居したことで利用者本人と家族が疎遠にならないよう、適宜家族会を開催し情報交換をおこなうようにしている。また、心身の変化があった場合には適宜連絡することとしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の知人や親戚等の面会ができるよう配慮している。また、必要に応じてドライブを兼ねて馴染みの場所へ出向くなどの対応をすることもある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	負担のない範囲で皆が共有して楽しめる機会の確保に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特に具体的な取り組みに着手していない。	○	サービスの利用が終了した後も、それまでに築いてきた関係が継続できるよう必要に応じてボランティア等の関わりをおこなっていけたら良いと考えている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に本人の意思を尊重するように努めている。但し、共同生活のため、即座に100%意思を尊重できる場面ばかりではない。	○	共同生活となるため、希望を即実現できない場面もある。但し、できるだけ何らかの形で希望に添えるよう努力していきたい。また、それを実現するためには家族の協力が不可欠な場面も想定されるため、協力を要請していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に本人、又は家族に生活歴の確認を行っている。	○	必要に応じて、在宅生活時に関わりのあったケアマネジャーやその他関係機関との連携を図っていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の生活スタイルを重視している。	○	心身の状態も日々変化していくので、小さな変化にも注意し職員間での申し送りを徹底していきたい。また、それをきちんと書類に残し、後々見たときに評価できるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族会等の機会に家族の意見を吸収し、介護計画書の中にその意見を反映している。	○	また、作成した介護計画を閲覧してもらい意見があれば反映できるように努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に伴いその都度計画を変更している。	○	状態に変化があった時には適宜見直しをおこなっているが、状態に変化がない場合にも、内容を継続していく上での確認(チェック)を確実に行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の記録に残しており、介護計画の作成や会議等の情報材料となっている。	○	毎月、個人のアセスメントを見直し記録に残している。今後は更にアセスメントが充実したものになるよう様式の変更、追加を検討しているところである。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	限られた空間で不穏になったり、落ち着かない場面が見受けられた場合等の際は、デイサービスのフロアに行き他の方と接するなどして対応している。また、医療連携体制をとっており緊急時に対応している。	○	地域に開かれた事業所として、また認知症のパイオニアとして地域住民に向けた介護教室を開催していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の(個人)理容師に訪問してもらい、格安で散髪を実施してもらっている。また、警察署(派出所)、消防署等に当施設の役割や入居対象者の現状を伝え、緊急時に協力してもらえるよう啓発している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	これまでに、そのような必要性がある場面がないため、現時点では具体的な対応は行っていない。	○	必要があれば、本人、家族が納得の上で検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の開催ができておらず、またそれ以外でも地域包括支援センターとの協働について取り組みの事実がない。	○	運営推進会議等を通じて、地域包括支援センターとの連携を密にしていきたいと考えている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族会または入居前の契約時に、提携医療機関の説明をおこない同意を得ている。また、提携医療機関とは日々状態の変化が起きた場合には必要な指示を仰ぐようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	状態に応じて、事業所への再入所が困難な場合(常時特別な医療行為が必要な場合)等を想定し、ケースワーカーもしくは必要に応じて看護師、医者との連携を密にしていきたい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	今後は、契約書の中に終末期の対応方法等を盛り込んだ内容を追加していきたい。また、提携医療機関の名称を一覧にしわかりやすいようにしていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような会話、特に排泄面や疾病関係の話は極力利用者の耳に入らないよう申し送りの際は配慮している。	○ プライバシー保護の観点から、トイレは各個室に設置している。また記録などの個人情報専用のケースに入れて管理し、取り扱いには十分注意している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	基本的に本人の意思を尊重した生活を送ってもらえるよう支援している。	○ 買い物等で自分で決めて購入できるよう配慮している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	51に同じ。ただ、共同生活により全てにおいて意向通りにいかない場面もあり、その際は説明し納得してもらったうえで事を運ぶよう配慮している。	○ 1日のスケジュールが決まっても、その日の天候や利用者の希望に応じて予定を変更することがある。例えば、夜間のドライブや喫茶店へ出向くなどの取り組みがある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	TPOに応じて身だしなみへの援助には気配りを行っている。お出かけ時と自宅でのくつろぎとで服装をかえ、お化粧品もお手伝いしている。	○ 化粧のボランティアさんに来所してもらうことがある。理容については近隣の有償ボランティアの理容師さんに月に数回訪問してもらい行っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関しては、業者委託しているため行っていない。それに係る配膳、御飯の盛り付け、後片付け等をできる人には一緒に行ってもらっている。また、おやつを手作りで利用者本人の力で作ってもらっている。	○ 調理を利用者本人におこなってもらい認知症の進行を防ぐという考え方が一般的にあり、それを否定するものではないが、過去に散々家事を行ってきたにも関わらず、高齢になった現在においてもそのようなことをしたくないという意見も多く聞かれる。それよりも、調理に費やす時間を別の接する時間に充てる方が合理的であると考え、あえて調理は委託している。また、衛生面、カロリー計算の面においても、その方が安全であると考えている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物と一緒にいくなどして、好みの品(菓子等)を自分で選んでもらうなどしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	○	<p>金銭が必要な場面(買い物等)は、職員の見守りの元に遣ってもらっている。金銭を所持することの必要性も理解できるが、逆に自己管理することで紛失したり、しまい忘れによる物盗られ妄想から利用者同士または職員との信頼関係を崩すことは避けたく、今後も事業所側で管理していくこととしたい。</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	<p>日帰りなどの小旅行を企画し、家族と共に実施できたら良いと考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している		
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○	身体拘束廃止委員会を通して、身体拘束に関する認識を高め質の良い介護と共に個人の尊厳に対する認識も更に向上していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○	玄関は、朝8:00～夜18:30頃までは開錠している。幹線道路沿いにあり、もしも戸外へ出られたときのリスクも大きいですが、それと同等に拘束の観点からのリスクも大きいと考えている。施設への出入りはセンサーで感知できるが屋外へ出る気持ちを理解し、できる限り職員が後を追いかけて見守ることを実践している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	○	行動を即座にとがめるのではなく、安全な範囲で見守りをおこなうようにしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○	救急救命法の講習については今後も定期的に開催を依頼していく予定である。また、避難訓練については、消防署の職員の派遣を依頼し、より実際に近い場面を想定した訓練を行っていきたいと考えている。訓練回数の増加も思慮の必要性がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の救急救命講習を受講し緊急時の対応に備えている。	○	緊急時の連絡方法についても事業所内に掲示し速やかな対応がなされるよう努めている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施し、消防署等にも協力体制を要請している。また近所の24時間営業の大型スーパー、車販売店の店長にはもしもの時の援助を依頼してある。	○	地域の店舗を含めた、消防、避難訓練を実施していけたら良いと考えている。また災害時に備えて、飲料水、乾パン、生活用水を事業所内と戸外に備蓄している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会開催時、面会時にコミュニケーションをとり、家族の意向の確認を行っている。	○	更に、家族や関係者とコミュニケーションを重ね、利用者にとっては住みやすい環境、家族にとっても安心してもらえる環境を作っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の状態や様子を個別ファイルに記入しており、異変を発見した場合は管理者へ報告している。必要であれば医療機関の受診をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を服薬ファイルに記載し一覧検索できるようにしている。また、薬剤情報の本を準備しそれぞれの副作用などについて検索が可能な体制がある。	○	主治医と連携をとり、症状の変化等について連絡をとっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	歩行訓練等のリハビリを実施している。それでも便秘されている方には医師より下剤を処方してもらい服用している。	○	左記以外に、食物繊維を多く含んだバナナなどの食材を個別に購入し摂取してもらっている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施している。義歯の作成や口腔内の異常がある場合は、協力歯科機関へ適宜受診している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理は業者委託しており栄養管理は栄養士が行っておりバランスの良い食事を提供している。	○	水分摂取については、夜間については個人の水筒を準備し摂取量が把握できるよう努めている。また、食事の摂取量については毎食摂取量を個人ファイルに記入し把握するように努めている。水分摂取量について、1日を通してきちんと把握できるような体制、方法を検討している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルがあり職員へ周知徹底している。	○	感染症がある方については、入浴順を考慮したり、必要に応じて滅菌消毒等を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理は業者委託しており、滅菌消毒等衛生管理を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を入ると季節に応じ、利用者が作った創作品を飾るなどの配慮をしている。	○	一般的に家庭的な雰囲気に配慮するような概念があるが、当事業所はデイサービスを1階に併設しているため、バリアフリーを重視した構造になっておりいわゆる家庭的な雰囲気と言うには至っていない。建物については、今後修繕や作りかえ等は考えておらず、既存の環境で雰囲気に配慮していくことは必要であると考えている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いわゆる施設っぽくならないよう、写真や手作りの装飾品をあしらうなどして工夫している。昔のなじみの音楽や童謡を流すなどして快適に過ごせるよう配慮している。	○	ベランダには、植物をおき成長を見守っている。教養スペースについては、空調に配慮し換気や適宜冷暖房の調節をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間とは別に、廊下にソファを設置し2～3人で集う空間がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使い慣れた家具などを持ち込んでもらい使用している。	○	今後は本人、家族に同意を得たうえで、個人の居室内の壁にコルクボードを設置し、写真を貼るなど、それぞれが思い思いに利用してもらうような対応を検討している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室のエアコンと共用部分のエアコンをその日の気温や湿度に応じて調節している。また、換気については廊下の天窓や通常の窓を利用して行っている。	○	夏場は西日があたる居室については、窓の外によしずを取り付け室内の温度調節にも配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとなっており、車椅子でも通行可能なスペースを確保している。	○	入浴について、グループホームとしてのお風呂は一般的な家庭の浴槽であるが、身体機能の低下など個人の能力に応じ、1階にあるデイサービスセンターに設置の特殊浴槽での入浴が可能である。よって身体の機能が低下した方でも、安心して入浴することが可能である。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できる範囲のことは職員と協力して行ってもらうよう促しをしている。混乱や失敗を事前に予測し必要な配慮をおこなうこととしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはプランター植物を置くなどして成長を楽しめるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

年に1回ではあるが、市内の同事業所と協力して市内大手ショッピングセンターに作品展を実施している。その作品展に向け利用者自身の自己実現が達成できるよう支援している。また、調理は業者に委託しておりそれに係る時間を利用者と接する時間に費やしている為、ゆったりと関わることのできる時間が多
い。

定期的に家族会を開催し職員と家族が情報交換することで信頼関係の構築に努めている。また、利用者が施設内にこもりきりにならないよう散歩、ドライブ、ショッピング、花見、紅葉狩り等、季節に応じて外出する機会を設けている。